

1. 授業事例

Dr. Martin Brendebach；“映画の中のナチズム”の授業記録

（2013年12月17日，Arndt-Gymnasium Dahlem，第10学年，15～16歳）



(1) 事例紹介

ここで取りあげる授業は，M.ブレンデバッハ（Dr. Martin Brendebach）による歴史授業「映画の中のナチズム」である。M.ブレンデバッハはベルリン市のアルント・ギムナジウム・ダーレム（Arndt-Gymnasium Dahlem）¹⁾の教師であり，この授業は彼が同校の第10学年生²⁾を対象にして2013年12月17日に実施したものである。

M.ブレンデバッハによれば，「映画の中のナチズム」は，ナチズム支配の成立と展開，第二次世界大戦中の軍の犯罪的行為についての一連の授業を踏まえてなされたものであり，ナチズム期に関する学習の一環に位置づくものである³⁾。この授業は途中休憩をはさむ2時限連続の90分授業として行われ，対象生徒数は24名であった。

(2) 授業展開

この歴史授業「映画の中のナチズム」における教師と生徒の発言，資料等を日本語訳にて示す。なお，①～④の分節化は，観察者である服部によるものである。

① 戯曲『追究』⁴⁾の朗読

教師：今日の授業のテーマは，黒板に書いてあるように，映画の中のナチズムです。始める前にもう1つのメディア...（ノックの音—1人の生徒が入ってくる）座りなさい。（生徒たちの笑い声）

教師：映画を始める前に，まずもう1つのメディアについて話したい。もう1つのメディアを紹介する。それについては，ペーター・ヴァイスの本『追究』を素材にして，金曜日に君たちと一種の朗読をした。最初にもう一度，短いシークエンスを読んでみたい。この時間の最後にまたそれについて話せばいいと思う。これを読んでくれる人がまた2人必要だ。アウレリオが1人目，もう1人女性は？

生徒：はい。

【教師がプリント（ペーター・ヴァイス『追究』の一部）を2人の生徒に手渡す】

教師：ターニャは証人のところを読んでください。それからアウレリオが裁判官と被告人。両方だよ，いいかな？
その前にいつも裁判官か被告人かを言うこと。いいかい？

生徒：はい。

教師：では。

生徒：最初は証人じゃないですか？

教師：そう、証人、ターニャ？

【2人の生徒がプリント（ペーター・ヴァイス『追究』の一部）を朗読し、他の生徒は聞く】

〈朗読（プリント）の内容〉

＜証人＞私は30回、直立房の刑の判決を受けました。それは日中は罰則労働をし、夜は独房に入ることを意味しました。
＜裁判官＞判決の理由は何ですか？
＜証人＞食糧の配給のときに2度並んだためです。
＜裁判官＞直立房はどこにありましたか？
＜証人＞ブロック11の地下通路のつきあたりです。そのような独房が4つありました。
＜裁判官＞1つの独房の大きさは？
＜証人＞90×90cmの大きさに、高さは2mくらいでした。
＜裁判官＞窓はありましたか？
＜証人＞いいえ。天井の隅に通気口が1つあっただけでした。それは4×4cmくらいの大きさでした。通気用立坑が壁を通っていて、外壁の穴の空いたトタンの蓋に繋がっていました。
＜裁判官＞ドアは？
＜証人＞床にある約50cmの高さのハッチを潜り抜けなければなりませんでした。ハッチは重い木材でできていました。その後ろには、かんぬきの掛かった鉄柵がありました。
＜裁判官＞独房にいたのはあなただけでしたか？
＜証人＞最初は1人でした。最後の数週間には4人でした。
＜裁判官＞昼も夜も直立房にいた囚人はいましたか？
＜証人＞それは一番多い判決でしたが、システムはそれぞれ異なっていました。2、3日おきに食物を与えられる人もいれば、全く与えられない人もいました。その人たちは餓死の判決を受けたのです。私の友人、クルト・パヒャラは、隣の独房で15日後に死にました。彼が最後に食べたのは、自分の靴でした。彼は1943年1月14日に亡くなりました。私の誕生日だったので覚えています。食事なしの直立房の判決を受けた者は、存分に叫び、罵ることができましたが、ドアが開くことはありませんでした。最初の5夜、彼は大声で叫んでいました。すると空腹がやみ、のどの渇きが強くなってきます。彼はうめき、乞い、懇願しました。自分の尿を飲み、壁をなめつくしました。渇きは13日間続きました。その後、彼の房からは何も聞こえなくなりました。彼が死ぬまでに2週間以上かかりました。死体は直立房から棒で掻き出さなければなりませんでした。
＜裁判官＞その人の判決理由は何でしたか？
＜証人＞彼は逃亡を試みたのです。独房に入れられる前、彼は夕方の点呼の際に、囚人たちの前を歩かされました。彼にはブラカードがくくりつけられ、それには「わあい、また帰って来たよ！」と書かれていました。この言葉を彼は大声で叫ばなければならず、その上にばちで太鼓もたたかなければなりませんでした。私の記憶では、最も長く直立房にいたのは、ブルーノ・グラーフという囚人です。彼がその中で怒鳴ると、拘禁監視員のシュラーゲがときどき戸口に来て「くたばっていいんだぞ」というのを、私は聞きました。1ヶ月後になってグラーフは死にました。
＜裁判官＞被告人シュラーゲ。あなたは囚人たちを直立房で飢え死にさせましたか？
＜被告人＞裁判長様、次のことをお聞き届けください。私はブロック11の看守にすぎませんでした。上官の命令を受け、それに従ったままです。地下牢で起こったことについて責任があるのは、私ではなく、拘禁管理人です。
＜裁判官＞囚人に食べものを与えたのは誰でしたか？
＜被告人＞職務付きの囚人たちがしました。
＜裁判官＞誰が独房の鍵を開けましたか？
＜被告人＞それも職務付きの囚人たちでした。私たち拘禁監視員は、政治部局の人が来た時に外側の鉄柵を開けるだけでした。
＜裁判官＞囚人たちは地下の牢で死にましたか？
＜被告人＞かもしませんが、覚えていません。
＜裁判官＞誰が死亡記録をとり、死因を記入しましたか？
＜被告人＞それは全て、職務付き囚人たちがやったことです。
＜裁判官＞それであなたは何もしなかったのですか？
＜被告人＞私は拘禁所の上階にいた私の管轄の人たちの見張りをしなければなりませんでした。時には18人ほどもいました。私は、彼らが自殺したり、馬鹿なことを企てたりしないように、注意しなければなりませんでした。
＜裁判官＞地下牢には収容所の所員も拘留されていましたか？
＜被告人＞もちろんです。誰にとっても公平でしたよ、所長様。あらゆる弱点は克服されなくてはなりません。
＜裁判官＞地下のその他の独房はどれくらいの大きさでしたか？

（授業記録音声より）

教師：はい、ありがとう。今ではなく、もしかすると後でまたこの箇所に戻ってきます。

② 映画『没落』⁵⁾の検討

教師：まず、次のものを見てみよう。

【教師が映画『没落』（一部）を映写し、生徒が視聴する】

〈『没落』の視聴箇所の内容〉

＜女性＞あの、どうしたらいいのかしら？総統にはどうぞ挨拶したらいいのですか？
＜男性＞まず総統が皆さんに挨拶なさる。そうしたら「ハイル、総統様」と答えてください。
＜トラウデル＞[右手を挙げる]ヒトラー礼はいらないのですか？
＜男性＞ご婦人方、それは私たちにおまかせを。あなた方の中に、総統は新しい兵士ではなく、秘書を探しているのですから。

(女性たちが笑う)

<男性>自由に、できるだけ普通に振る舞っていただければ一番です。彼に時間があるかどうか、のぞいてみます。

<男性>総統、ベルリンからご婦人がみえています。

<ヒトラー>皆さん、こんなに夜遅くに来ていただいたことに感謝します。戦時においては、不幸なことに、人はいつも時間の主人ではあり得ない。

<ヒトラー>お名前を伺ってよろしいですか？

<女性1>マルガレーテ・ローレンツと申します。ハイル総統様。

<ヒトラー>どちらからいらっしゃいました？

<女性1>レーデルハイムです。総統様。

<ヒトラー>あなたのお名前は？

<女性2>ウルズラ・プットカンマーでございます。ハイル総統様。

<ヒトラー>「ハイル」は結構ですよ。ご出身を教えてください。

<女性2>フランクフルト・アム・マインです、総統様。

<女性3>ハンナ・プトウスキーです。ベルリン生まれです。正確には、バンコウ区出身です。

<女性4>シュヴァーベン地方、グライルスハイムから参りましたジークリッド・ブランドです。

<ヒトラー>あなたのお名前は？

<トラウデル>トラウデル・フムプスと申します。ミュンヘン出身です。

<ヒトラー>ミュンヘンの方ですか。では、フムプスさん、試してみましようか！

<ヒトラー>私のブロンディ[犬]は、あなたに何もしませんよ。彼女は非常に鋭い理解を備えている。人間よりもずっと賢い。まずは楽になさってください。緊張する必要は全くないのでですよ。書き取りのとき、私自身が、あなたにはとてもできないくらいの、たくさん間違いをするのですから。

<ヒトラー>まだとてもお若いようだが、おいくつですか？

<トラウデル>22です、総統様。

(タイプライターでの口述筆記の試験が始まる)

<ヒトラー>我がドイツ民族同胞たち、党の同胞諸君よ、1人の男が20年も経った後に、自分の支持者の前に現れることができ、その20年間に、そのプログラムに何の変更も加えなかったということは、何か希有なことではないかと、私は思う。…もう一度、やってみましようか。

<トラウデル>やったわ！採用になった。(皆、歓喜する)

(授業記録音声より)

教師：(咳) まず、君たちがどっちみちしようと思っていることをしてくれるようにお願いしたい。つまり、短い話し合いの時間を取って、君たちが今ここで見たものをどう思ったか、意見を交換してほしい。

【生徒がペア活動によって感想を話しあう (約1分間)】

教師：よろしい、では皆さんに尋ねます。この短いシークエンスからどのような印象を受けましたか？シュテファン？

生徒：ええっと、彼はいろんな面を持った人で、ただの悪い人ではなくて、どこか親しみやすく、礼儀正しい人でもあったんだということが目立っていました。

教師：ふうん。他には？

生徒：彼は一番若い人を選んだんじゃないかな。全然仕事ができなくても、彼は彼女を選んだ。

教師：トム？

生徒：彼女はミュンヘン出身だった。彼はどうしても出身地を知りたいようだった。そしてミュンヘンというのが気に入った。だから彼女を選んだ。

教師：ジモン？

生徒：外見で決めたんじゃないかな。彼女は一番若く、あの中では一番見栄えがよかった。

教師：ふうん、ヤコブ？

生徒：彼はもうなんだか年を取っていて、ヨボヨボで、ちょっと疲れた感じがした。身体の動きとかが、それに…彼にはもう、なんだか…もうあまり生きるエネルギー、やり抜く力ががないみたいだ。

教師：この描写に驚いた？

生徒：彼は確か52歳で死んでいる。だから、もうまるで60か70くらいに見えたのに驚きました。演じた俳優が今それくらいであるように。もうシワがあったし。写真で見た感じ、ヒトラーはもっと若かったと記憶しています。

教師：たぶん精神年齢があらわれているんだね。(笑い、咳) ヨハネス？

生徒：実際に極端なことは何もなかったのに僕たちは無理に何かを解釈しようとしてるんじゃないか、という気が少しします。

教師：ふむ、アントニア。

生徒：あえて言うなら、彼が丁寧なものには驚きました。彼女が失敗しても「ではもう一度やってみてください」って彼は言った。私の想像とは違ったけれど、たぶん特別に[映画の中では]こうしてあるのでは。

教師：ヒトラーがこんなときにどんな反応を見せたか、君はどんなふうにご想像していたの？

生徒：そうですね、「君は不採用だ」と彼女に言って、放り出して、他の人を雇ったのではないかと思います。

教師：ふむ、どうぞ。

生徒：他に意外だったのは、彼が、あの、ええと、えっと、「ハイル、ヒトラー」とかいうことを、あまり重視してなくて、どちらかというところでもよくて、それにイラついていたみたいだったこと。

生徒：たぶん、たぶん単に、個人的な関係、とは言わないかもしれないけど、彼女は彼の秘書で、しょっちゅう会うわけで、その度にハイル・ヒトラー、ハイル・ヒトラー、ハイル・ヒトラーと言ってたら、本当にイライラするよ。でもこれはこの映画の中だけの話でしょう。

教師：映画の中だけの話だって、言ったのかい？

生徒：その通りです。僕は違うと思う、それが本当の…つまり、全て真実に即しているとは、僕は思わない。だから温厚だとか、感じがいいとか（何度も何かを言い違える）

教師：君が今提起しているのは手に汗にぎるような問題だよ。ヒトラーが自分の秘書にこんなに感じがよかったことが、真実に即しているか、彼は疑問を抱いている。この点をしっかり抑えておこう。ヤコブ？

生徒：（咳ばらい）これはいずれにしても真実に即しているんじゃないかな。ずっと、アメリカのコメディ映画みたいに、ずっと、攻撃的なヒトラーでいるのはものすごくキツイから、絶対無理だと思う。（咳）見かけの礼儀正しさは内面的な考え方と必ずしも一致しないものでしょう。

教師：じゃあ、君は同意するか？君はこれ、この描写が真実に即していることを疑うと主張するの、それとも、こうだったんじゃないかと言うの？

生徒：こうだったんじゃないかと思う。

教師：マックス？

生徒：彼の主治医がユダヤ人だったことは皆が知ってる。その人が言ったには、彼がひどい人間だったとかいうことはなくて、その人は彼のために働いたから、連行されなかった。

教師：ふむ、このヒトラーの描写は、観客、彼らの、観客の、ナチズム時代やヒトラーという人物についての見方にどんな作用をもたらしたと思う？ニコル？

生徒：彼のことが、どうしても、より親しみやすく、人間的に感じられると思う。何百万人ものユダヤ人の迫害の煽動者ただただだけではなくて、たぶん実際の生活の中で、個人としては感じのいい人だったのかもしれない。

教師：私たちが見つけた調査では何と言っているか？この映画は青少年たちにどんな作用を与えたか？調査結果は特に驚くべきものではなかった。青少年たちは、ナチズム時代について、以前よりも実質的にポジティブなイメージを持って映画館から出てきた。また興味深いことに、ハウプトシューレよりもギムナジウムの生徒たちの方が、ある程度、見解により強い影響を受けた。（咳）とにかく作用は外れなかった。これには信憑性があるか、真実に即しているか、イエスかノーか、またはこの作品の中に事実の歪曲があるか、それとも本当にこうだったのか、というのは手に汗にぎるような問題だ。うん。

生徒：先生は知ってるんでしょう。

教師：え？そう、もちろんわかっています。うん。

生徒：きっとヒトラーの個人についての手記もあるでしょう。それと比べてみたらわかるんじゃないですか。

教師：そう、その通り。誰かの手記がこの描写の背後に隠れているかもしれない。誰だと思えますか？この描写が土台にしている可能性がある回顧録を後に書いた人は誰かな？

生徒：きっと秘書でしょう。

教師：そうです。その通り。トラウデル・ユングは、80歳を過ぎる高齢になってから、インタビューを受け、自分の体験を全て話しました。その限りでは…、雰囲気は同じでしたね。…ヒトラーは、彼は優しいおじさんみたいに友好的で、ああ、小さい子よ、失敗したって、大丈夫ですよ、本当にそんな状況で、状況はそれとして大体こんな感じだった。質問してもいいですよ、トム。

生徒：たぶんポジティブなところが強調されているんじゃないかな。でもプライベートな生活については、プライベートな部分や親しみ深さか、それとも、例えば彼がユダヤ人にしたことや、戦争をしたことのどちらが重要か、考えなければならぬ。そうしたら、結局そっちの方がずっとひどいことだと気がつくはずだ。

教師：トムが今言ったことは興味深いよ。この映画は、プライベートな生活にアクセントを置いているって、君は言ったのかな？そういう言い方だと思ったが。どんなふうに行ったっけ？

生徒：えっと…

教師：映画はプライベートとか、それに似たもの、そう、ポジティブな面を強調しているって。

生徒：そう、そう、プライベートを扱っている。

教師：その通り、君はそう言った。とても興味深い点だ。そこをおさえておこう。ヤコブ？

生徒：トラウデル・ユングとかいう人にとって、客観的に見るということは、どのみちすごく難しいんじゃないかと思う。彼女は戦後も生きのびたけど、その人生は実際には終わってしまっている。だって、世界でたぶん最も嫌われている独裁者に実際に仕えたんだから。彼がいつも親切だったから彼女は実際 [抵抗するようなことは] 何もできなかつたんだと、彼女はなんとかして言いたかつたのでは。

教師：ああ、興味深いね。君は今すでに、彼女がそれについて語ること、彼女がそれをどのように語るかの動機について考えているんだね。よい考えですよ。ジモン？

生徒：はい、僕が言おうと思ったのは、この映画のタイトルは『没落』ですよ。…最初の5分でタイトルと映画の関係がいつもわかるわけではないけど、僕が、これがこの映画だと知らなかつたら、まるでシチュエーションコメディみたいに感じただろう。いつもテレビでやっている、ただの、何かの番組みたいだ。

教師：この映画は今ではもう最新作ではないんだよ。誰か偶然この映画を知っている人はいるかい？誰かこれを見た？これはもうテレビでも放映されたんだ。だからあり得るよね…。誰も見ていない？『没落』では、特に最後の12日間…静かに！コンラート、何か言いたいことがあるのなら手を挙げなさい。降伏、ベルリンでのヒトラーの殺害、自殺の前の最後の12日間、ベルリンでの末期戦についてであって、実際には、特に総統壕そのものにおける出来事に焦点を当てて描写されている。そこで私たちがここで設定する問題とは、映画の中の描写にどの程度信憑性があるかということだ。これは外来語で、皆がしょっちゅう使う言葉ではないね。「信憑性のある」という言葉が何を意味するか、誰か説明してくれませんか？

【教師が「映画の中のナチズム」につづけて「信憑性のある描写？」と板書し、

生徒が手を挙げて発言の意思表示をする】

教師：おや、これは大勢だね。素晴らしい。ええと、ニルス。

生徒：信用できるの同義語です。

教師：うん、悪くない。信用できる、ね。もっと中身は多いが、よい基礎になる。

生徒：事実に忠実。

教師：オーケー、信用できる、そして事実に忠実。それらは2つの異なる概念だが、それぞれがそれぞれの側面をたいへんよく表している。トム？

生徒：それそのものの特性を自然に表し偽らないこと。

教師：オーケー、よろしい。信用できるか、事実に忠実か、今日のテーマはそこにあります。最初の作品は映画『没落』でした。後で2つの他の例を見ます。それらをもとにして、私たちが探ろうとしているものはどんなふうにあらわれているかを見ます。(咳) 信憑性があるという表現は、2つの土台の上に立っています。どう言ったらいいかな、この映画は、この描写は、「資料に基づいています」。出典があるのです。「だからそれは真実です」。次の文句は、「この映画にはその意味で信憑性がある」、かな。

生徒：それを証明する、時代の証人がいる、とか、よく言われます。だから信憑性がある。それならあの女の人がそのとき居合わせて、それを体験した、というのも原則的には同じことなのでは。

教師：オーケー、じゃあこれでこの問題は解決かな。それでは、この映画には信憑性があると言えるね。なぜなら、証明をする資料があるから。

生徒：多くの時代の証人は、その経験の影響を受けています。だから彼らは常に客観的とは言えない。

教師：なるほど、ターニャ？

生徒：資料すなわち客観的だと言えるほど、資料がいつも信じられるものだというわけではありません。多くの人は人とは違う見方をするし。または、あの、多くの資料はまた、…何と云うか、それぞれ違うでしょ。今は確証できなくて、何かの資料でなくて、何か他のものでというとき、100%それを信じることはできません。それは本当にひとつの…

教師：ふむ、オーケー。それは本当に重要な点です。資料が存在するときも。私たちはまず、よく注意して、その資料をもう一度批判的に分析しなければなりません。それを私たちは学びました。ニルス？

生徒：えっと。その人の見方によると思う。誰か別の女性の1人の視点から描写されたとしたら、彼はかなり感じの悪い人として捉えられたかもしれない。なぜなら彼にとって重要だったのは、出身地で、結局一番若く、魅力的な人がよかつたわけだから、他の女性の1人の目から見たら、ずいぶん違っていたと思う。

教師：君の言うことは正しい。トムがさっきほめかしていた、第2の点だね。まず疑問を持つ：基礎となつて

いる資料は信頼できるか？すると、次の点が疑問となる：そういうものの土台として、どんな資料が選ばれたか？どんな視点か、と君は言った。全くその通り。他のイメージをもたらず、他の視点も想像できる。どの資料を採用するか、どの視点を採用するかについて決定を下すのは、誰だろう？

生徒：脚本を書く人。

教師：脚本家、監督、とりわけお金を出すプロデューサー、これについても私たちは考えなければならない。

③歴史映画分析の指針づくり

教師：うむ、さて、次の例に行く前に、史料の解釈、検討をするときに取り組んだもの、つまり指針を仕上げてほしい。まず次のことを考えてほしい。映画分析のために、どんな指針が必要か？映画のシークエンス、または映画全体を、専門的な見方で分析するために、ここで徐々に整理してこなければならなかった視点はどうか？専門的というのは、美学的ということではない。俳優がよかったとか、面白かったとか、そういうことを問うのではない。カメラワークにおいて、どのような観点が選択されたかとか、そういうものは皆ここでは除外する。専門的な見方からみた視点が問題となる。今度は、史料を解釈するための君たちの指針を利用してごらん、きっと助けになるだろう。史料の解釈とどの程度類似したやり方で映画の分析ができるか試してごらん。それぞれ2人で組になりなさい。ここは男同士2人で組めばいい。

【教師がワークシート1を配布する】

【生徒が映画分析の指針をペア活動によって考える(約4分)】

教師：今2人からまた質問があったので、はっきりさせておきます。もちろん、歴史を扱う映画のための一般的な指針のことを言っているんだよ。特に私たちが見たこの映画のことだけを言っているんじゃない。もちろん、一般的な指針です。

【引き続き、生徒が映画分析の指針を

ペア活動によって考える(約6分)】

教師：さて、私の見る限り、ほとんどの人たちはしっかりした結果を出したようだね。次のことをお願いしたい。いいかい？静かにしなさい。マット？私たちはここで1つの手引きを…1つの、拘束力をもつ指針をいっしょに理解することを試みる。君たちは様々なアイデアを紙に書いた。君たちの指針にないものがあつたら、少なくとも大まかな要点を補足してほしい。今ここで次第に作成されてゆく指針を、それに続く解釈…分析に利用しよう。私たちが分析しようとするとき、第1の段階は、何だろう？ユンガ？

生徒：内容の再現。

教師：よろしい。君が今見たばかりのシークエンスについて、手本になるようにやってみよう。試してみよう。どんなふうになるのかな？

生徒：ええと…そして…

教師：それで？

生徒：だからそれは、ええと…、紹介された中から…1人を選んで、彼が彼女に口述筆記をさせて、それで彼女は全部書き取らなければならなくて、あの…

教師：よろしい、再現についてももう少し書き足さなければならないね。このシーンではある程度特徴的なことがあって、最初にそれが言われるよね。ビルテ？

生徒：彼がとても親切だったことを書き留めたいです。

教師：その通り、典型的なものを入れなければね。例えば、シーンの中で典型的だったこと、トラウデルがミスをする、彼が感じよく振る舞うことだね。また全て明らかになった、1つのシークエンス、1つの映画にとって、もちろん、何が内容で、何が大まかなあらすじか、という映画の全体図にのっとった再現だよ。第2のポイントとして、何をしたらいい？ジモン。

生徒：えー、…コンテキスト。コンテキストがわかるなら、そのコンテキストを書き留めるようにしなければな

映画の中のナチズム－信憑性のある描写？

1. 専門的な見方によって歴史映画を分析するための指針をつくりなさい。

注意：

<ワークシート1>

らない。コンテキストを語る映画以外、どの映画も無条件的にコンテキストが明らかというわけではないから。

教師：よろしい。もっとはっきり知りたいんだが、どういう意味でコンテキストと言っているんだい？何のコンテキストだい？

生徒：コンテキスト、えーっと、何があったか、どのようにして、この映画の中の状況が生じたか…

教師：オーケー。

生徒：その、あまりよくわからない…。

教師：いや、それでいい。つまり映画の内容のコンテキストだね？ゴア？

生徒：歴史的な背景。

教師：その通り。この映画の場合、それはどういうものかな？この映画の部分にとって？君なら何を書く？ヤコブ？

生徒：ええっと、…僕は例えば、ええっと、…あの…脚本家と監督と、…

教師：注意して、ちょっと待った。それはコンテキストの別の形だよ。興味深い点ではあるが、今はそれについて話しているのではない。私たちが今話しているのは、映画の内容のコンテキストだ。それについては後で話そう。ギュンター、どうかな？

生徒：その時代。彼がその頃、当時のドイツや世界の政治的な統治の状況において、そのように動いていたかどうか。

教師：気をつけて。ちょっと待って。それはまたすでに解釈になるよ。1歩ずつやっっていこう。コンテキストとは何だろう？私たちが見たこのシーンの、歴史的コンテキストだよ。ニコル。

生徒：映画に対応している解釈、例えば映画に描かれた喜び、とか。

教師：わかった。君が言うのは、誰が誰だとか、何が映っているかとかなだね？（ベルが鳴る）続けてごらん。それはいつだった？

生徒：戦争中。

教師：その通り。第二次世界大戦、と言おう。もう1つ…遅れて始めたから、10分延長します。あと10分続けるよ。指針ができたなら休憩しよう。いいかい？一人一言？もう1つ、ヤコブが提案したもの、それは問題だ。映画のプロダクション、株式会社、会社にとってのコンテキストとは何かを、私たちは映画について考える。映画を作る人にとってのコンテキストとは何か？誰が脚本を書き、お金はどこから出たか、など。それは別の問題であって、もしかすると後で取りあげる。劇映画の分析における第3のポイントは？アレキサンドラ。

生徒：今私が書いたのは、どの語り手の視点から映像化されているかです。

教師：ふむ、よろしい。

生徒：または、どんな立場がそれと結びついているか。

教師：よいでしょう。ビルテ？

生徒：ええっと…。そして、その立場において、いわゆる見方がどのように限定されているか。

教師：ふむ、君は今、映画に登場する人物について、ある程度言っているのだね？

生徒：はい、つまり、その人が考えているようなことが現実であると想像できるということです。

教師：わかった。秘書が登場して、すでに物事に対する決まった見方を持っている、と言ってみようか。正しい、その通りです。オーケー、フロリアン？

生徒：ポイント3ですね。ええっと…資料が正しいか。この資料は事実に該当するかどうか調べなければなりません。また、その資料が左右されていないかどうか調べなければならない。そうですね、明らかに。

教師：その通り。映画がどのくらい真実に即しているかという問題に関して。私たちは史料の解釈のところで、「真実に即した」と言った。映画でもそれと同じだ。それは真実に即しているか？（ノックの音）この映画は真実に即しているか？つまり、こういった問いが生じる。まず、書かれたことが、本当に合っているのか？歴史を題材にした映画についても想像することができる。それがデタラメだったり、間違っただけを示したり、そういうこともあるということだよ。つまり…内容が真実か、ということは、書かれたことが裏づけられるか、ということだ。それが本当に合っている、第2の問題がまだ残る。その資料は、その裏づけにおいて本当に信頼するに足るか、という問題がなおあるんだ、いいかい？ジモン？

生徒：ここで第3の問題として、この映画の考えは何だろう、ということがあるんじゃないですか？

教師：ふむ、オーケー、考えって言った？

生徒：背景というか、背景にある考えかな。

教師：それはいいね。オーケー、背景にある考え、底意ということかな？

生徒：底…、知りません。

教師：でも底意というのが、それにふさわしい言葉だと思うよ。取りあえずこれを採用しよう。さらに教養のあるいい方では「意図」とも言うかな？アレキサンドラ？

生徒：質問があります。あの、その…脚本家とかが読んだという資料ですけど、どんな資料を使ったのかとか、知るのとはすごく難しいことではないですか？

教師：普通の観客にとっては、実際難しいことだね。通常それは知られていない。

生徒：はい。

教師：それならもっと気をつけて、よく見ないといけないね。うん、調べることだね。普通は知らされないことだから。この映画ではしかし、言及されているよ。秘書の…手記に部分的に準拠していると。

生徒：部分的って、どういうことですか？

教師：他の資料も援用したんだよ。よし、この映画で描かれていることが本当のことか、もうわかったね？そのように起こったか、どの資料に基づいているか、どんな事柄が選択されているか、どの視点がここで採用されたか。うん、もうかなりたくさんのがわかった。私たちはここまで留めておこう。まずこれで、実際、私たちにとっては十分だ。今日分だけでなく。史料情報に対して見つけることのできる別の類似ポイントについては後で扱おう。まず5分間休憩を取る時間だ。5分間の短い休憩の後、また始めます。

【1時間目終了、2時間目に入る】

④ 映画『ヴァルキューレ作戦』⁶⁾と映画『シュタウフェンベルク』⁷⁾の対比的分析

教師：さて、ではまだの人たち、急いでください。オーケー。私は、指針の重要な点を、小さな注意事項として記しました。それを「注意」と書かれてあるところの下に書き込んでください。君たちが書き留めることは最も重要な事柄ですから。私が書いた文字が古い機械[OHP]とでひどい組み合わせになっているので、もう一度読みあげます。さて、「注意」：映画に信憑性があるという命題には誤解が生じやすい。この通りに書いてください。

教師：映画に信憑性があるという命題。映画に歴史的な間違いがなくても、その映画は、歴史的な真実の1つの解釈にすぎない。そしてそれを私たちは個々の分析の中で…しなければならない。

生徒：最後の文をもう一度言ってください。

生徒：説明してください。

教師：もう一度言います。映画に歴史的な間違いがなくても、…つまり、資料があり、そしてそれが裏づけられるため、事実関係においてその限りで正しくても、つまり、間違いがなくても、それは1つの解釈、歴史的な真実の1つの解釈にすぎない。言われているように、映画は視点を選び、特定の見方を構築し、また意図を有する可能性があり、それは見ぬかれうる。ここまで大丈夫かな？オーケー。

教師：次の30分間の君たちの課題は、やや複雑な分析を行うことだ。今度は2つの映画のシークエンスを見せます。1つはドイツ映画から、もう1つはハリウッド映画からで、そのドイツ映画のリメイクです。というのは、「おお、これはよい素材だ、うまく機能するぞ、我々もやってやろうじゃないか、アメリカ式に」と思った人たちがいたわけだ。主題は取りも直さずシュタウフェンベルク。君たちの豊富な歴史知識は、私や皆にシュタウフェンベルクが誰かということの説明するのに足りるものかな？1、2、3人、へえ、なかなかだな。

生徒：彼は何かの大將だった。

教師：大將ではないね、もう少し下、将校だね。

生徒：いずれにせよ、両方の…のうちのひとつの、または将校。

教師：なんだい？

生徒：彼は将校で、ヒトラーの暗殺を企てました。でも失敗に終わって。テーブルが頑丈すぎたから、だったかな？

教師：そう、その通り。シュタウフェンベルクによるヒトラー暗殺計画。その後には彼はどうなったのかな？シュタウフェンベルクはその後どうなった？

生徒：秘密警察が彼を見つけて銃殺しました。

教師：どこでか、わからないが、…彼は、ベントラー街、今日の国防省で、クーデターを組織したが、そこで逮捕され、すぐに銃殺されたんだね。よろしい。マックス？

生徒：彼は、とても苦痛の少ない死に方をした、彼がやったことに比べ…

教師：そうだね。実際に、その背景については多くの議論がある。もっといろいろな事実が明るみに出ないように、彼をいち早く撃ち殺してしまうことに関心があった人たちがいたのではないかと。なぜ彼がそんなに早く撃ち殺されたかにはもう1つ背景がある。つまり、ある意味、彼はドイツの抵抗運動における最も偉大な英雄の一人だった。さて、君たちに2つの映画シークエンスを見せる。そして英国の歴史学者のシュタウフェンベルクについての文章を配る。次のことをしますよ。よく聞きなさい。最初のシークエンスを見せます。ここではトム・クルーズがシュタウフェンベルクを演じています。その後、君たちは文章を読む。その間に私は2本目の映画の準備をします。2つ目のバージョンはドイツ映画で、セバスチアン・コッホがシュタウフェンベルク役です。その後、君たちは2人で組んで作業をします。映画の分析をしてもらいます。私たちがさっき作成した指針を、2本の映画に適用します。それらのシークエンスに君たちは何を見たか。30分間の時間をあげます。その後、私は2組のペアを選びます。そのペアはそれぞれ、話し合いの結果について4分間のスピーチをすることになります。いいですか？

教師：よろしい。では最初のシークエンスを見てください。…さあ、静かに。

【教師が映画『ヴァルキューレ作戦—シュタウフェンベルクの暗殺計画』(一部)を映写し、生徒が視聴する】

＜『ヴァルキューレ作戦』の視聴箇所の内容＞

(兵士たちの宣誓の声)
＜手記を書くシュタウフェンベルクの声＞総統の平和と繁栄の約束は虚偽だった。後に残ったのは荒廃以外の何ものでもない。ヒトラーの親衛隊が行った残虐な行為は、ドイツ国防軍の名誉を恥ずかしめるものだ。将校団の中では、ナチスが犯した犯罪への嫌悪が広がっている。市民たちの殺戮、捕虜たちの拷問と餓死、ユダヤ人の大量殺戮。将校としての私の義務は、もはや祖国ではなく人命を救うことにある。ヒトラーに立ち向かえる地位にいて、その勇気のある将軍を、私は1人も知らない。
＜兵士＞シュタウフェンベルク大佐、将軍が4時間以内に到着します。
＜シュタウフェンベルク＞ありがとう。到着次第、面会する。
＜シュタウフェンベルクの声＞真実に直面しようとしなさい、またはする能力のない者たちの中に自分はいらぬ。ヒトラーは全世界の宿敵であるだけでない。彼はドイツの宿敵なのだ。何かが変わらなければならない時が来ている。

(授業記録音声より)

教師：さて。今度は文章を配りますので、まず読んでください。その後2つ目のシークエンスを見ます。

【教師がリチャード・J・エバンス「彼の本当の顔」

(抜粋/ <http://sz-magazin.sueddeutsche.de/texte/anzeigen/27927> より)を配布する】

【生徒が読んでいる間に教師は次の映写の準備をする(約5分間)】

教師：オーケー、もう準備はいいですか？

【教師が映画『シュタウフェンベルク』(一部)を映写し、生徒が視聴する】

＜『シュタウフェンベルク』の視聴箇所の内容＞

＜シュタウフェンベルクの声＞親愛なるニーナ、我々は道を深く突き進み、2日前から右も左もポーランドの群衆に囲まれている。この国には慰めがない。砂と埃ばかりだ。住民たちは信じがたいような[貧困にあえぐ]賤民だ。非常に多数のユダヤ人と非常に多数の混血民族。圧政の元でのみ幸福を感じる民族だ。際限のない貧困と、荒廃に満ちている。何千人もの捕虜たちは、我が国の農業にとって有益だろう。
＜シュタウフェンベルク＞ロシアへの進軍が子供の遊びではないことはわかっていた。
＜ヴィルヘルム＞私が言っているのは戦争の話ではない。大量殺戮のことだ。
＜シュタウフェンベルク＞大げさだね。
＜ヴィルヘルム＞ここで起こっていることは、クラウド、前線のすぐ背後で起こっていることは、あらゆる想像を超えている。君がそれを話したとしても、陸軍総司令部の君の仲間たちは、君を信じないだろう。
＜ヴィルヘルム＞(1人の女性に向かって)君が何を見たか、彼に話してやってくれ。
＜女性＞あ…、うう…
＜ヴィルヘルム＞彼女は夜、忽然とうちのドアの前に立っていたんだ。完全に錯乱し、疲れ切って。この手紙を陸軍総司令部に届けてくれないか。そうしたらすぐにベルリンに着く。
＜シュタウフェンベルク＞もちろんだ。
＜女性＞(最初はロシア語、次第に片言のドイツ語で)…おかあさん、女、子供、私の子、夫、…やめて、やめて…命令、脱げ、…どうか、どうかやめて、…女たちと男、…子供、とても小さな…こんなに小さい…とても小さい…私の子、…、どうか、子供はやめて、どうかやめて ビューン!!!
＜ヴィルヘルム＞彼女の村、クブカで、このすぐ近くで、ドイツの特別任務部隊が、住民を手当たり次第捕まえたんだ。そして彼らの首元を撃った。(女性は独り言を言っている)村全体だ。
＜ヴィルヘルム＞(1枚の写真を取り上げ、シュタウフェンベルクに言う)これが彼女の両親と兄妹だった。他の村もやられている。
＜ヴィルヘルム＞中央陸軍隊だけで、3万件の処刑があったという報告を受けている。言語道断だ！クラウド、彼らも私たちと同じ人間なのだ。この人種間憎悪には怖気が立つ。
＜シュタウフェンベルク＞彼らは解放された。私の耳にはまだ歓声が聞こえる。
＜ヴィルヘルム＞解決法はただ1つしかない。ヒトラーを亡き者にするのだ。

<シュタウフェンベルク>今、戦争の真っ只中ですか？我々は彼の前で軍旗への誓いを立てたのだぞ。
<ヴィルヘルム>クラウス、彼こそ、全ての誓いを百回も破っているんだ。私たちはもう待てない。
<シュタウフェンベルクの声>親愛なるニーナ、私たちの記憶の中で永遠に燃えさかる日々がある。私たちが考え、することの全てに、突然疑問を抱く瞬間だ。私の任務、私の人生について、これほど大きな疑念を持ったことはかつてなかった。

(授業記録音声より)

教師：質問はありますか？

生徒：質問があります。彼がどこかで女の人に手紙を書いたというのは、ある程度、本当のことなのですか？

教師：映画の、手紙は本物です。彼が書きました。

【教師がワークシート2を配る】

生徒：本物か。でも、手紙が読まれたりしないって、彼はどうしてわかったんだろう。どうしてわかるの？[誰かに]読まれるんじゃないかって、僕ならまず思います。

教師：私にわかるのは、ただ…(教師は他の生徒のシュタウフェンベルクの人物像についての質問で遮られる) そう、黒髪の方、…そう、クラウス・フォン・シュタウフェンベルクだ。

教師：皆、わかってた？クラウスというのがシュタウフェンベルクだよ。彼の名前はクラウス・シュタウフェンベルクだ。いいね？映画の中の髪が黒い方だ。それがシュタウフェンベルク、いいかな？パートナーがいるね？では20分の時間をあげよう。

【生徒がペア活動によって2つの映画の分析に取り組む(約2分)】

教師：これももう一度皆に言うておくよ。最初の映画がアメリカの映画、2つ目のシークエンスがドイツ・バージョンだよ、いいね？

<ワークシート2>

【引き続き、生徒がペア活動によって2つの映画の分析に取り組む(約10分)】

教師：よろしい、時間がきたので、ペンを置いてください。

教師：さあ、前を向いて。

教師：よろしい。あと10分ありますから、共同発表で整理していきましょう。つまり、君たちは前に出て来る必要はなくて、席に着いたままでいいです。そうして、これから一緒に分析をやっていきましょう。第1のポイント、再現すること。それも、2つのシークエンスを対比して。特に共通点と相違点をはっきりさせなければいけないよ。誰がどんな上着を着ていたとか、そういう細部は要りませんよ。(咳) ヨハネス？

生徒：僕は、ええっと、大きな違いは、彼がアメリカ映画で、つまり最初で、えーっと、あのナチズム的なシステムに対して、最初から批判的だったところにあると思います。2つ目では、なんか、まずあの人を通して…

生徒：彼の上司を通して？

教師：上司ではないよ。前線にいるもう1人の将校だ。フォン・トレスコウのことだよ。

生徒：彼はその人を通して初めて、何か疑いを持つことを確信した…

教師：よろしい。トム？

生徒：両方の映画で、彼は、ナチズムに批判的に取り組み始めます。もう1つのバージョンではもう少し強く。彼がナチズムについてネガティブな考え方をするという意味で、言うなれば、それは1つの共通点です。そしてもう1つの共通点は例えば、彼が両方の映画で大量殺戮に反対していた…

教師：ああ、ヨハネスはすでに1歩進んでいるね。君は言った…ちょっと待って、違うんじゃないか。ドイツ・バージョンでは彼は最初、支持者だった。

生徒：はい、でも、僕が言いたいのは、彼は気づいているでしょう。自分の役割に疑問を覚えていると手紙に書いていた。

教師：最終的に彼は気づく。そうだ。最後にやっただよ。いいね？

生徒：そのとき、あの、あのポーランド人女性だったかな、恐怖に怯えるポーランド人女性を通じて、またもや少し、最初の疑惑が生まれて、彼はそのときすぐには言わず、もう一人の将校に、すぐには、自分はヒトラーに反対だとは言わなくて、そうではなく(言い違えつつ)何か動いて、それから彼は考え始めて、自分の使命にだんだん疑問が湧いてきたとか、手紙を書くとか、そこに違いがあると思う。最初では、

映画分析の例-"シュタウフェンベルク"の2つのバージョン

1. 今しがた作成した指針を手がかりにして、2つの映画のシークエンスを分析しなさい。その際に、2つの映画の場面を対比しなさい。そのためにリチャード・エバンスの論考「彼の本当の顔」も読みなさい。

2. 自分たちの成果を4分間の発表にまとめてクラス全体に呈示しなさい。

彼はすでに、ヒトラーはドイツの宿敵だと言っていて、そこでは[ドイツ版では]彼は出来事を通して初めて確信を持つようになった。

教師：オーケー、ニコル？

生徒：そして、そもそも、ええっと、ドイツ映画では彼は証人に会って、アメリカ映画では、シーンの中で彼は完全に1人でした。そして、えーっと、全く別の場所において、一方はアフリカで、一方は白ロシア、ポーランドで、えっと…

教師：オーケー、よろしい。ヤコブ？

生徒：ヨハネスの行ったことは正しいと思います。ドイツ映画の冒頭で彼は、[ナチスに]賛同していて、そしてえーっと、この文章[「彼の本当の顔」]に書いてあるように、ナチズムに傾倒していました。でも、芸術的なつくりにもそれは簡単に見ることができます。例えばドイツ映画では、最初、燃える家の当時の画像が出てきて、アメリカ映画では、戦争が美化され、英雄像が作り上げられている。

教師：エスラン。

生徒：えーっと、今これが重要かどうかはわからないけれど、アメリカ映画では、彼がまるで秘密の手紙を自分だけのために書いているみたいで、ドイツ映画では、皆オープンに話している。

教師：少なくとも2人でということだね…よい観察だ。アンドレア？

生徒：ドイツ映画で彼は実在の人物宛に手紙を書いていた。アメリカ映画では彼は日記みたいなものを書いていて、それは誰にも見ることができません。今、実際には存在しないものだから。

教師：さて、私たちは2つの異なるシュタウフェンベルクの描写を見た。今度問題となるのは、歴史的コンテキストとの関連づけだ。わかりやすく言うと、2つか3つの文で充分ですよ。

生徒：僕は、ドイツ映画が、真実に…

教師：待った。関連づけから行ってみよう。つまり、映画の中に出てくる歴史的コンテキストだ。さあ、想像してごらん。何についても全く知識のない人がこのシーケンスを見たとする。これをどう分類したらいいのか、一体何についてなのか、彼にはわからない。そのとき、ここでは、この状況では実際に、歴史的に何が起きているのかを、ごく短く説明してあげなければいけない。ニルス？

生徒：これは戦争のピークの頃のことで、えっと、えー、とても残酷なことがたくさん…

教師：その通り。それを言及するのは重要だ。ドイツ国防軍にも戦争犯罪があった。ターニャ、何か補足することは？

生徒：そうですね、第二次世界大戦の中期から末期に当てはめていいと思います。というのは、すでにたくさんのが起こっていて、ユダヤ人差別とか、そういうこと全て。

教師：特に、ユダヤ人殺戮だね、うむ…

生徒：労働組合の撲滅とかそういうものも…

教師：よろしい。原則的に、戦争犯罪が将校たちにとっても明白になってきた戦争の段階に今いるんだね。その通り。わかったね。アレキサンドラ？

生徒：はっきりとはわかりませんが、まだドイツが優勢だった頃なのではないでしょうか。

教師：そう、オーケー、このへんでもう十分だ。今度は手に汗握るような問題だ。どうしてこうなったのか？今2つの映画、1本はアメリカの、もう1本はドイツのがあって、今ここに異なる…さて、もう一度真実についての問題だ。どちらの映画が、ここでは何が信憑性があるか、ここでは何が本当のことか？この2本の映画は本当のことをいっているだろうか、2本のうちの1本だけだろうか？どう思う？フォルティナー。

生徒：私はドイツ映画の方が信憑性があると思います。なぜなら、彼ははじめヒトラーを支持していて、ヒトラーの約束したことがいいことだと思っていました、でも戦争中にだんだんと信頼をなくして行って、何か違うと思うようになっていった。

教師：ふうむ…はい？

生徒：ドイツ映画が現実的なのは全く当然だと思う。全然別のことを扱っている。アメリカ映画は娯楽作品で、歴史的な、えーっと、なにか実際にあった出来事に基づいているけど、もちろんそのときのことをすごく賛美的に描いていて、ドイツ映画はたぶん、それがどうだったかという、現実的なイメージを描こうとしているんじゃないかな。

教師：ふむ。オーケー、あとでその点に戻ろう。いい考えだ。ニコル？

生徒：私もドイツ映画の方が信憑性が高いと思います。最初の登場の仕方だけでも、えーと、あの、当時の様子が画面に現れて、それに、彼が自分はヒトラーをなんとかして殺さなければということをも自分から決意したのではなくて、疑問に思っ、言うならば友人や証人と話したところが現実的だと思います。だからそ

それは自発的に決めたことではなく、たぶん難しい決意だったんだろうと思います。

教師：ふむ、いずれにせよ、ドイツ映画の方が、人物像についてより多くの面を見せているね。今度はこう訊いてみよう。アメリカ映画が見せたものは、真実ではなかったのかな？

生徒：(ベルが鳴る) ええと、そうは思いません。真実だけれど、すべては見せなかった。たくさんのが抜けていて、観客はなんでそうなったのか理解できなかった。

教師：注意事項を短く言います。第1に、始まりが遅れたので、まだ5分時間があります。第2に、ベルのせいでもよく聞こえませんでした。皆よく聞いて。もう一度言ってくれる？大切なことだった。さあ、もう一度。

生徒：はい、あの、アメリカ映画が見せたシーンそのものは真実だけれど、ドイツ映画に出てくるたくさんのが省略されているのだと思います。だから観客はどうしてこうなったかということの全ては理解できません。

教師：オーケー、いいね。フィリップ？

生徒：アメリカの映画は、英雄タイプを作り上げるために、ただ見せたいものを見せている。そして…それは紋切り型だ。

教師：娯楽映画は経済的な理由で作られていると、君たちはすでに言っていたね。わかりやすい英雄がちょっといてくれればいいわけで、あまり多くの暗い側面は邪魔なだけだ。これも背景、延長上にある考え、底意なのかな。たぶんそうだね。その映画にはどんな底意があるかと指針に書いてあった？正当な物事にとってのこんな全くの英雄をここで出したいというとき、それには政治的にも、どんな関心が結びついているのだろうか？想像してごらん、君たちが政治家だとする。たとえばアメリカの。そして考えてみてごらん。シュタウフェンベルクの描写は、政治的な目的として想像するものに適合していなければならない。何百万人もの人たちが映画を観に行き、影響を受けて映画館から出てくるのだからね。

生徒：いずれにせよ、彼らはヒトラーをすごく憎んでいる。だから、ヒトラー、ヒトラーが映画の中ですごく悪い奴に描かれるのがいいと思っている。それははっきりしている。そしてシュタウフェンベルクを、いわばヒトラーと戦う、いわば英雄に仕立て上げる。それが多くのアメリカ人に気に入るんだと思う。ヒトラーと戦う人は、たぶん、ちょっと人気があるだろうから。

教師：それはこの件をいずれにせよ単純にする。ドイツの抵抗運動の闘士がその地で独裁者と戦ったという映画を今見た時、アメリカの観客やドイツの観客が現代におけるどんなテーマを連想するか、想像できるかい？たいていの場合、底意があるときには、現代もまた少し関連してくるんだよ。これは現代のどういうことをほめかしているのか、という点で。

生徒：この頃、アメリカではまだブッシュが政権を取っていたっけ？それなら理論的には…

教師：もうオバマだったよ。でも大統領が映画を発注するわけではないんだよ。そんなに直接な関係はないんだ。

生徒：僕が言っているのはその逆です。この映画ではブッシュがヒトラーなのではないかと。そしてたぶん革命家がいる…

教師：ええっ、それは極端だ。行き過ぎだよ、行き過ぎ！いいかい？

生徒：ネルソン・マンデラはどうでしょう。

教師：自由の英雄、そう、自由の闘士？いずれにせよそうだね。考えてみよう、ある権力が、脅…、トム！…ある権力が世界的紛争の中で強い脅威に晒される時、型が必要になってくる。すると常に悪人と善人がいなければならない。そうしなければ、自分たちの民衆がついてこなくなる。それがシリアであり、リビアだ。そこでは常に強烈な善悪の図式が必要とされ、非常に明確な英雄がいることでそれが簡単になるわけだ。たぶん、実際にシュタウフェンベルクがそうであったように、英雄というものはアンビバレントであり、ずっと多くの問題をはらんでいる。ある意味で、ね？うん、つまりそれ故に、いつも注意しなければならないのは、どこに、またたぶんどこかに、動機があるということだ。最後にもう1つ例を挙げよう。誰か『パール・ハーバー』を見た？その映画を知ってる人はいるかい？うん？見逃したのは残念だね。テーマは、アメリカの、ええっと、アメリカ人の戦闘で、えーっと、第二次世界大戦における戦闘で、えっと、航空母艦が出てくるシーンがある。航空母艦を1隻借りようとしたら、1日いくらかかると思う？数百万だよ。会社の人たちは合衆国軍からこれを無料で提供されたんだ。なぜなら、アメリカ軍がどんなに勇敢に戦ったか、若い将校が入営し、正義のために命を捨てるのがどんなにかっこいいかを、映画が見せるからだ。そういうことを考慮しなければならない。そんな映画にはものすごくお金がかかる。そしてお金を払えば、注文をつけられる。お金を払えば、何を見せるか、どんなものの、どの断面を見せるかに、影響を与えることもできる。だから、君たちを放免する前に、最後の呼びかけをします。映画館に行ったら、考えてください。それはただの映画ではない。鵜呑みにしないでください。誰かが、特定の見方で、

編集しているだけかもしれないことに、注意してください。よろしい。では休憩しましょう。どうもありがとう。

2. 歴史授業「映画の中のナチズム」の特色

M.ブレンデバッハの歴史授業「映画の中のナチズム」には3つの大きな特色を見出すことができる。

第1の特色は、現在の歴史映画を主たる学習対象として取りあげていることである。

この授業では、『没落』、『ヴァルキューレ作戦』、『シュタウフェンベルク』というナチズム期について扱う3つの歴史映画の描写が取りあげられている。歴史映画は学問的な狭義の歴史叙述ではないけれども、過去について語る広義の歴史叙述の一種であり、生徒が卒業後も日常の生活のなかでかかわることになりうるものである。ドイツでは社会における過去の取り扱いの有り様が歴史文化（Geschichtskultur）と呼ばれ⁸⁾、歴史映画、歴史漫画、歴史祭り、歴史展示、記念碑、記念日、記念演説、歴史論争などが歴史授業において取りあげられるようになりつつある⁹⁾。ベルリン市の前期中等教育段階における歴史科の学習指導要領でも、狭義の叙述だけでなく広義の叙述も分析できる能力の育成がめざされており¹⁰⁾、この授業はそのような学習指導要領の要請に応えたものとなっている。

第2の特色は、生徒が歴史映画の検討を踏まえて分析の基本的枠組みをつくり、それを使って実際に分析を行う学習として、構成されていることである。

この「映画の中のナチズム」は、(1)『追究』の朗読、(2)『没落』の検討、(3)『没落』の検討を踏まえての歴史映画分析の指針づくり、(4)指針に基づく『ヴァルキューレ作戦』と『シュタウフェンベルク』の対比的分析という4つのパートからなっている。(1)において、『追究』の朗読により、ナチズム支配の問題性を再確認させた後、(2)において、既存のイメージと異なるヒトラー像を描いた『没落』を取りあげ、信憑性について検討させ、(3)において、その検討を踏まえて、歴史映画を分析するための指針をつくらせ、そうして(4)において、同じ題材を対照的に扱っている『ヴァルキューレ作戦』と『シュタウフェンベルク』を取りあげ、指針に基づいて対比的に分析させる。教師の指導のもと、信憑性の検討を踏まえての分析指針の作成とその指針の適用による分析を生徒に行わせている。

第3の特色は、歴史映画を対象として取りあげ、信憑性の検討を踏まえての分析指針の作成とその指針の適用による分析に取り組ませることにより、歴史映画の基本的性格と歴史映画分析の基本的枠組みを学習内容として生徒に学ばせていることである。

この授業では、何らかの立場に基づき視点を取捨することで構築された映画叙述の構築性やパースペクティブ性に気づくとともに、内容の要約的な再現、歴史的コンテクストとの関連づけ、信憑性にかかわる依拠資料や視点と意図の吟味という基本的な分析枠組みを身につけることが学習内容となっている。前期中等教育段階であるため、学習内容とする分析枠組みを基本的なものに限定し、生徒が指針を作成し実際に適用することで分析枠組みの根拠となる基本的性格とともに学びとることをねらっている。

歴史授業「映画の中のナチズム」は、後期中等教育段階でなくとも前期中等教育段階の歴史授業でも歴史映画の分析学習が可能であることを示している。生徒が生涯にわたって社会に溢れる多様な歴史と批判的にかかわり、自らの歴史認識を築いていけるようにするため、日本の歴史教育においても生徒が現在の社会における過去の様々な取り扱いを分析検討できるように育むことが必要であり、そのための条件や方法が究明されるべきであろう。

註

1) アルント・ギムナジウム・ダーレムは、旧西ベルリン地域に位置する。近くにベルリン自由大学がある。同校のホームページは、<http://www.arndt-gymnasium.de/>

2) ベルリン市(州)の場合、初等教育段階の基礎学校は第1～4学年、前期中等教育段階にあたるギムナジウムは第7～10学年であり、後期中等教育段階にあたるギムナジウム上級段階は第11・12学年である。

なお、同市の前期中等教育段階における歴史科の学習指導要領(Rahmenlehrplan)によれば、第9・



アルント・ギムナジウム・ダーレム (2013年12月17日, 服部撮影)

- 10 学年の必修の主題領域は、1「帝国」、2「民主制と独裁制」、3「ブロック対決とドイツ問題」、4「目下の世界政治の問題圏」である。Senatsverwaltung für Bildung, Jugend und Sport Berlin, *Rahmenlehrplan für die Sekundarstufe I, Geschichte*, Berlin, 2006, S.34.
- 3) Martin Brendebach, Entwurf “Der Nationalsozialismus im Spielfilm”, 17.12.2013/10b, 2013.
- 4) Peter Weiss, *Die Ermittlung*, Suhrkamp Verlag, 1965 の邦訳書として、ペーター・ヴァイス (岩淵達治訳) 『追究』, 白水社, 1966 年がある。
- 5) 『没落 (Der Untergang)』は 2004 年にドイツで公開された。監督はオリヴァー・ヒルシュビエゲル, 主演 (ヒトラー役) はブルーノ・ガンツ。
- 6) 『ヴァルキューレ作戦—シュタウフェンベルクの暗殺計画 (Operation Walküre — Das Stauffenberg-Attentat)』は, アメリカ映画『Valkyrie』(2008 年) のドイツ語吹替により, 2009 年にドイツで公開されたものである。監督はブライアン・シンガー, 主演 (シュタウフェンベルク役) はトム・クルーズ。
- 7) 『シュタウフェンベルク (Stauffenberg)』は, 2004 年にドイツで放映されたテレビ映画である。監督はヨー・バイアー, 主演 (シュタウフェンベルク役) はセバスティアン・コッホ。
- 8) Hans-Jürgen Pandel, Geschichtskultur, in: U.Mayer, H.-J.Pandel, G.Schneider, B.Schönemann (Hrsg.), *Wörterbuch Geschichtsdidaktik*, 3.Aufl., Wochenschau Verlag, 2014, S.86-87, Dietmar von Reeken, Geschichtskultur im Geschichtsunterricht, in: *Geschichte in Wissenschaft und Unterricht*, 55, 2004, S.233-240, Jörn Rüsen, Geschichtskultur, in: K.Bergmann, u.a. (Hrsg.), *Handbuch der Geschichtsdidaktik*, 5.überarbeitete Aufl., Kallmeyer, 1997, S.38-41, Bernd Schönemann, Geschichtsdidaktik, Geschichtskultur, Geschichtswissenschaft, in: H.Günther-Arndt (Hrsg.), *Geschichtsdidaktik Praxishandbuch für die Sekundarstufe I und II*, Cornelsen, 2003, S.11-22, 他, 参照。
- 9) このような近年の動向については, 差し当たり, 次のものを参照されたい。
- ・服部一秀「中等一貫歴史カリキュラムにおける歴史文化探究力の育成—ザクセン州ギムナジウムの歴史科(第 5～12 学年) の場合—」, 全国社会科教育学会『社会科研究』第 76 号, 2012, pp.1-10.
 - ・服部一秀「年代史カリキュラムにおいて過去の取り扱いの探究能力を育成する方略—ザクセン・アンハルト州中等学校の 2012 年版歴史科の場合—」, 日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.123, 2014, pp.13-26.
- 10) Senatsverwaltung für Bildung, Jugend und Sport Berlin, *Rahmenlehrplan für die Sekundarstufe I, Geschichte*, 2006, Berlin, S.14.

《授業収集に協力くださったアルント・ギムナジウム・ダーレムのマルティン・ブレンデバッハ氏に厚くお礼申し上げます。また、逐語記録の作成にご助力いただいた方々に感謝致します。》

付記

服部一秀「前期中等歴史教育における歴史映画分析学習のための授業構成—ベルリンにおける歴史授業「映画の中のナチズム」の場合—」(山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究紀要『教育実践学研究』第 20 号, 2015 年 3 月)において, 歴史授業「映画の中のナチズム」について詳細に分析検討していますので, 参照ください。